

テキサス大学 留学体験記

医学部 医学科 4年

小林 陽花 (こばやしはるか)



LifeFlight見学。

2018年6月下旬から2ヶ月間、世界最大規模のテキサスメデイカルセンター内にある、UT Health McGovern Medical Schoolのサマリサーチプログラムに参加させていただきました。テキサス大学は徳島大学と交換留学制度を結んでおり、長年交流が保たれています。私が参加したサマリサーチプログラムとは、テキサス大学が夏季休暇の間、アメリカ国内の学部生や留学生を対象に開催しているもので、それぞれの研究室に分かれて研究を行います。私はDepartment of Molecular Medicine Volk教授の下、ある蛋白質について、数ある論文を基に、特徴、病気の診断や治療にどのように使うことができるのかということを考え、レビューを書いていました。また、DNAアプタマーの研究や3Dプリンターを使った研究も行いました。研究室は、オープンラボで仕切りがなく、他の研究室と器具や情報を共有していました。プロトコルや実験装置など、徳島大学で経験したものと変わらず、研究は世界共通だと改めて認識しました。

また、許可をいただき、6人の臨床医の先生の外来や手術、回診を見学させていただきました。特に、Texas Children's Hospitalで見た、世界トップレベルの小児心臓外科の手術は圧巻でした。日本では小児心臓外科手術はアメリカと比べかなり症例数が少ない一方で、それは宗教や社会的背景から、日本では移植のドナーが少ないことも理由として関係していることと知り、医療技術以外の問題を考える良い機会になりました。日本人医師の方がアメリカ人の患者さんに、「本当にありがとうございます。」と言われている場面を見て、人種や文化が違っていても患者さんに寄り添って、一緒に病気を闘うことはできるのだと思ひ、感銘を受けました。アメリカは実力主義で、医師免許や研修医制度も、個人の實力に応じて特別枠が設けられていました。年齢や人や過去の経歴に拘わらず、能力が認められるとチャンスが増えていくため、トップレベルの人々が集まっており、多くの人が渡米を志す理由が分かった気がしました。他国の友達と話していると、アニメやコスプレ、ゲームなど日本のブランドの話題で盛り上がり、日本人は礼儀正しく勤勉だ、日本は清潔感があるし、文化は面白いという言葉が溢れてきました。また、日本の医療保険

は素晴らしいと感じました。アメリカでは、医療費が莫大で、保険の種類によって入れられる病院、受けられる治療が変わります。日本は様々な補助制度があり、全ての人にとって医療が受けやすい工夫されています。留学をすることで自国のことを客観的に見ることでできたのも大きな収穫でした。様々な人種が混じりあうアメリカで、多くの人に会い、感じ、学ぶことができました。帰国後は、より一層医学や海外に興味を持ち、USMLE講演会を企画したり、サンパウロ大学のウインタースクールの応募したりと意欲的に活動できています。この経験を糧に、これからも様々なことに挑戦し努力します。



仲良くなった友達と休日にAustinへ。



Dr. Aisenbergの回診見学。



お世話になったDr. Volkと中国からの留学生Ms. Yuと共に。

My Life in Tokushima

私の人生で得た贈り物

大学院 口腔科学教育部 博士課程 2年
劉 黎佩 (リュウレイハイ)[中国]



留学生
滞在記



研究室の友達とラーメン屋さんで(筆者:右から2人目)。



祖谷の紅葉。



小松島で夫とみかん狩り体験(筆者:右から2人目)。



研究室の友達と後楽園で(筆者:右端)。

徳島大学での最初の日、寮(北島にある徳島大学国際交流会館)から蔵本キャンパスまで45分かけて自転車で行きました。息を切らして長い坂道を登り、ついに吉野川にかかる四国三郎橋を渡りました。天気は恵まれ、山が青く川がとても澄んでいて、感動する

景色でした。こんな美しい徳島を留学先を選んで良かったと思いましたが、徳島に来てからまた一年半しか経っていませんが、私の気持ちの中ではもっと長い時間を過ごしたように感じています。様々な活動に参加し、日本人だけでなくいろいろな国から来た人たちに出会い、友だちがたくさんできました。専門の実験の予定がない週末には、いつも友だちと食事に行ったり、観光に行ったりしています。蛍を見に行ったり花火大会に行ったり、中国では体験できないことをしています。また、藍染めや琵琶など、徳島の文化にも触れることができました。友だちの家と一緒に料理を作ったこともあり、お菓子を食べたりしながら、楽しくおしゃべりをしました。徳島に

いる間、このような日常にある小さな幸せを大切にしていきたいです。私は、上海の同済大学を卒業しました。日本に来る前に上海のあるプロジェクトに参加し、同済大学歯学部大学院生になりました。そのプロジェクトで1年間、昼間は歯科医師として病院で働き、夕方と週末は授業を受け、研究をしました。自分の時間を作ることが難しく、研究の時間も十分に取れませんでしたが、思い切った中国の大学院をやめ、日本に留学することにしました。日本に来たから、そのときの決断は正しいか、ますます確信するようになり、指導して下さる先生や先輩方から、これまで知らなかった多くの研究方法や実験の

技能を学びました。時間を無駄にすることなく、毎日自分が成長しているという実感があります。これからは、何事も失敗を恐れず、様々なことに挑戦してみたいです。将来は社会に役立つ歯科医師になりたいと思ひ、現在、週に2回徳島大学病院で見学とアシストをしています。とても多くのことを学んだり経験したりして、本当に充実した日々を過ごしています。病院では、中国と日本の医療環境の違いを感じました。この中で最も気になるのは、患者と医師の信頼関係です。中国では、多くの優れた医師が大都市の大きな病院に集まっています。医療資源が田舎の方に分散しないので、田舎に住む人たちの重い病気は治りません。そして、患者は病院や医師に怒り

と失望を感じやすくなっています。一方で、都市にある大きな病院の医師は大勢の患者を診察する必要があり、たいへんな負担を感じています。患者の待ち時間はとても長く、また医師との喧嘩や相互の理解不足もよく起こります。日本で医師と患者双方がお互いを理解し合えるようにするという医患関係を目にし、私自身も患者から信頼され、安心感を与えられる歯科医師を目指して努力をしています。また、中国の医師と患者の関係の改善にも微力を尽くし、貢献していきたいと思ひます。徳島での貴重な生活と心の糧になるような貴重な経験は、間違いなく私の人生で得た贈り物です。